

市民が主人公の市政めざす

日本共産党

新吉川

2020年
10月5日 No.993
日本共産党吉川市委員会
栄町1444-5 電話981-1922

吉川市9月市議

9月議会が2日から24日まで開かれました。20年度の一般会計補正予算は、約3億7千万円です。新型コロナウイルス禍対策費として国からの地方創生臨時交付金1億1千万円を活用した中央公民館や公園、市民サービスセンターなど公共施設のトイレ洋式化等の予算が提案、全員賛成で可決されました。吉川市の19年度の一般会計決算の認定について日本共産党の遠藤義法議員が反対討論を行いましたので、内容を紹介します。

情報提供せず、市民格差持ちこむ市政転換を

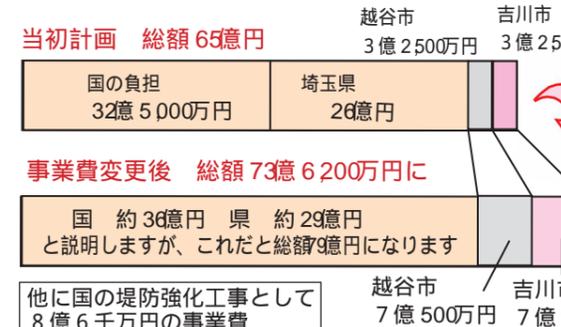
2019年一般会計決算認定で反対討論 日本共産党

2019年度は、10月から消費税が10%に引き上げられ、幼児教育・保育の無償化、今年2月からの新型コロナ対策等があります。吉川市では総額57億円の吉川中学校の建設、第二保育所の建て替え、全小中学校へのエアコン設置などがありました。

これら事業を行うため市は、48億2475万円の地方債・借金をしました。借金総額は237億9853万円となりました。18年度と比べ29億5894万円の増です。住民要望を実現するためにこれら借入も必要です。

当初計画の倍に吉川市の負担

越谷市 3億2500万円
吉川市 3億2500万円
国約36億円 県約29億円
と説明しますが、これだと総額9億円になります



情報提供に消極的

議会は議決権をもち、行政をエググする役割を持っています。議会がエググ機能を果たすためには、さまざまな市の事業計画などの情報を得て審議、判断することにより良い施策となります。しかし、情報を議会に提供する姿勢が消極的と言えます。



平等に事業を行うことが大前提

市の事業は地域や年齢、団体等で差をつけることなく、平等に行うことが大前提です。いま試行的に実施しているタクシー利用券補助事業はどうでしょうか。旭・三輪野江地区の住民のみで市街地の高齢者を除外しています。市街地に住んでいても体の不自由さや病気がからバスに乘れない高齢者は多くいます。タクシー券支給をとの要望も多く寄せられています。

より良い地域公共交通をみんで考えようというのか、当初予算の議論でも指摘しました。財源的にも市でコミュニティバス運行などの事業を行えば国から事業費が出ます。昨年度の決算では、路線バスの赤字分補填として約1036万円特別交付税(国への申請で積算)で交付されているという市の説明です。なぜこの財源を公共交通に活かさないのか、活用すべきです。

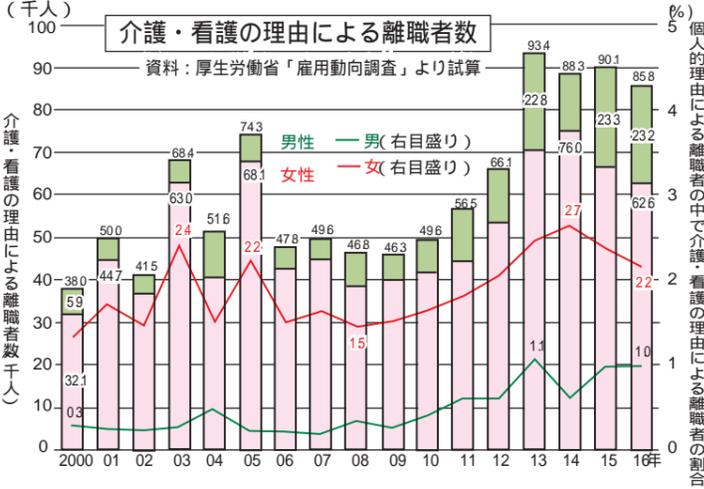
総選挙勝利をめざして 衆議院議員 塩川 鉄也
いまや与野党問わず、消費税減税の声があがっています。わが党の一貫した消費税減税の訴えが政治を動かしています。日本共産党が伸びれば必ず政治は変わります。いよいよ総選挙。野党共闘の前進、日本共産党の躍進で、野党連合政権を。



梅村 さえこ 野党連合政権をつくる歴史的選挙です。前回涙をのみ3年、北関東を駆け巡り、東海第二原発は廃炉に！などの声を届けてきました。誰もが安心して暮らせるケア社会、ジェンダー平等社会を！今度こそ国会へ、頑張ります。

介護保険財政 基金9億円 積み立てよりも制度の充実を

9月議会に提出された「吉川市介護保険特別会計歳入歳出決算」、市の「介護保険給付費準備基金」は9億2554万円です。介護保険財政は黒字です。吉川市だけでなく全国的に見ても、2000年以降介護保険がスタートして以来、介護保険財政は一貫して黒字だと言われています。



介護保険制度がスタートして21年も経ちながら、介護が必要となる介護者も、それを介護する介護者も、そして介護事業に携わる介護職員も幸せになっていない、よい状況が作られていない、こうした点に介護保険制度の行き詰まりを感じています。

重い障がいがあったとしても、その人らしく安心して暮らせる吉川市を

9月議会文教福祉常任委員会では、この問題を機に市がどのような対策をとったのかについて、雪田議員が質しました。



24時間365日の 重度訪問介護も可能に 重い障がいのある方々の自宅を訪問し、介護を提供する「重度訪問介護」の国の基準は約256時間/月です。毎日同じ時間数訪問するならば、1日8時間程度です。

その結果、介護職員も介護虐待の被害に悩まされています。介護職員の転職が繰り返され、入所施設なども不安定した雇用が課題になっています。なぜそうした問題が起きるかと言えば、介護職員の労働条件の悪さにあるので

た。個別な要求については、ケアマネと担当職員の間で十分連携して、どんなサービスが必要なのか、どんなことに困っているのか、情報交換しながら対応している」とのことです。こうした市のルール化によって、その方の状況によって24時間365日の訪問介護も可能となったとお話でした。

その人らしく暮らすということ

重い障がいを負い、自分では身動き一つできない状態になり、日常生活の全てにわたって介護が必要状態になっても、だからこそ家族と離れて一人で暮らしたいと思う方も当然いらっしゃいます。24時間365日の介護が必要だからこそ、家族に迷惑をかけたくない、自分のために配偶者や子どもたちに人生を縛られてほしくない、家族にも当たり前に自由に生きてほしい・・・。そう願うのは自然な気持ちです。

都内などでは、そういう方が24時間365日の支援を受けながら家族と離れて独り暮らしをすることも可能になっています。そういう状態でも介護サービスを使っている子どもの学校の授業参観に参加することもできています。

どこに住んでいても、当たり前のようにそんな生活を選択することができるといことは重要なことだと考えます。同じ立場に立てば、同じようなことを願う人は決して少なくはないはずです。決して他人事ではありません。